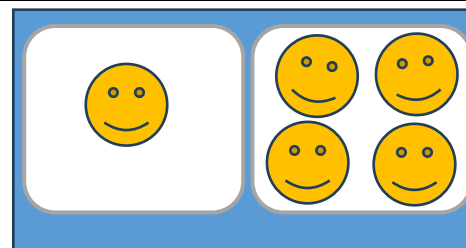


「多い」「少ない」を選択することの指導 ～タブレット端末を使った事例～			
学部・教科	小学部・数学科	事例コード	2 4 1 2
学習グループ の実態	- 小学部 4 学年（1 名） 1～30 までの数唱ができる。数の大小についての理解は曖昧な部分がある。 - 選択することが難しく、問われたことをオウム返ししてしまったり、片方だけを選んだりすることが難しい。		
単元(題材)名	「くらべてみよう」		
学習指導要領 の内容	算数科／小学部 2 段階 A 数と計算 ア 10 までの数の数え方や表し方，構成に関わる数学的活動 (ア) ㊤ (イ) ㊦		
単元(題材)の 目 標	知識及び技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等
	○二つの数を比べて数の大小が分かる【A ア (ア)㊤】	○数詞と数字、ものとの関係に着目し、数の数え方や数の大きさの比べ方、表し方について考え、それらを学習や生活で興味をもって生かすことができる。【A ア (イ)㊦】	○数の大小に関心をもち、算数で学んだことの楽しさやよさを感じながら興味をもって学ぶことができる。【小学部 2 段階 A 目標ウ】
単元(題材)の 計 画	総時数 8 時間 1 身の回りのものを数え、「多い」「少ない」という言葉を知る。(1 時間) 2 教師と一緒にものの数を比べる。(5 時間) (1) 2 種類のものを数え、教師と一緒に「多い」ほうを選ぶ。 (2) 2 種類のものを数え、教師と一緒に「少ない」ほうを選ぶ。 (3) 教師の問いかけを受けて、「多い」「少ない」を選ぶ。 3 具体物を数に置き換え、教師と一緒に数を比べる。 (1) 1～5 までの具体物を数え、数字カードに置き換える。 (2) 置き換えた数を比べ、「多い」「少ない」を選ぶ。		
指導の実際	- タブレット端末で数の異なる 2 つのカードを提示し、タップすると「多い」「少ない」という音声が出る教材を使用した。 →教材を使用していくことで、教師の問いかけを受けて、「多い」「少ない」を判断し、タップすることができた。 - 数字と具体物を提示したり、数字だけを提示したりする段階を設けて指導した。 →実際に指導すると、具体物と同じ数の数字カードを選ぶことができた。数字だけで「多い」「少ない」を比べることは難しかった。数字と具体物が両方提示されたタブレット端末の教材では、「多い」「少ない」を選択することができた。 - 数字の大小について、学習や日常生活を通して、数の大きさを意識できるように指導していくことが課題である。		



タブレットの画面構成の
イメージ